

第1回いわき市行政経営市民会議 議事要旨

I 日 時：平成26年7月7日（月） 15時00分～17時00分

II 場 所：市役所 第3会議室

III 出席者：別紙のとおり

IV 次 第

○委嘱状交付式

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 閉会

○第1回会議

- 1 開 会
- 2 委員及び事務局紹介
- 3 説 明

(1) いわき市行政経営市民会議の概要

4 委員長・副委員長選任

5 協 議

(1) いわき市行政経営市民会議の進め方について

(2) 基本的な計画について

① 新・いわき市豪壮計画 後期基本計画について

② いわき市復興ビジョンについて

③ いわき市復旧計画の進捗状況について

④ いわき市復興事業計画（第三次）について

6 その他

7 閉 会

V 第1回会議の主な内容

(1) いわき市行政経営市民会議の概要

事務局) ～資料1に基づき説明～

委 員) 特に意見等なし。

(2) 委員長・副委員長の選任

事務局) 委員長、副委員長の選任について意見があればお願いしたい。

委 員) 事務局で選任案があれば提示してほしい。

事務局) 委員長は、いわき明星大学の石丸純一委員に、副委員長は、いわき商工会議所の正木好男委員にお願いしたいと考えているが如何か。

委 員) 異議なし。

委 員) ～委員長就任あいさつ～

委 員) ～副委員長就任あいさつ～

(3) 市行政経営会議の進め方について

事務局) ~資料2に基づき説明~

委員) 会議の開催については、各委員の都合を勘案のうえスケジュールを調整していただきたい。

委員) 市の総合計画については、最後の第7~8回目の会議で審議することとなっているが、当会議ではどのような内容の検討を行うのか。

事務局) 基本計画の具体的な見直しについては平成27年度となるが、当会議では当該計画の入口の部分や大きな方向性について審議していただきたいと考えている。

委員) 議事要旨の署名の前に、各委員への確認について、当会議では実施しないのか。

委員) 以前は事務局から次の会議が開催される前に議事要旨を送付してもらったことがあったと記憶している。

事務局) 議事要旨の事前の確認については、昨年度は行っていない。

委員) 各委員への事前の確認を行ってほしい。

事務局) 各委員の了解をもらってから公開するようにしていきたい。郵送やメール等で確認させていただきたい。

委員長) 会議の運営については、原則、公開とし、議事要旨については各委員に事前に確認していただくこととしたい。議事要旨の署名については、委員2名については、私と正木副委員長を除いて、名簿順で持ち回りにしたい。本日は、宮本委員と西口委員が署名人となるがよろしいか。

委員) 異議なし。

(4) 基本的な計画について

事務局) ~別添資料に基づき説明~

委員長) 本日の案件に関する質問や意見等がある場合は事務局へ問い合わせいただきたい。今後も、会議内容に関する質問等があれば、随時、事務局で対応いただき、会議の円滑化を図っていきたいと考えている。

委員) 復興事業計画(第二次)までの進捗管理は行っているのか。

委員長) 昨年度の市民会議では行っていた。

委員) 復興事業計画(第四次)は、現在の復興事業計画(第三次)の進捗を踏まえて策定するという事によいのか。

事務局) その通りである。

委員) 復興住宅の耐用年数、将来的に若い世代に賃貸できるような柔軟な策はあるのか。

事務局) 耐用年数は不明だが、1512戸整備を進めており、既に入居開始しているところもある。家賃減免についても、復興交付金を活用して対応している。一度退去し、空きが出た場合は通常の市営住宅として運営してよいことになっている。

委員) 最初は入居する人は多いと思うが、例えば、中央台の団地のように、高齢化に伴って若い世代が住まなくなってしまうが、将来的にそのようなことを想

定して、国と対応策を検討しているようなことはあるのか。

事務局) 今後、市として、災害公営住宅を全体としてどのように管理していくのかという課題認識を持っている。一方、県の復興住宅は 1,700 戸整備する予定だが、市と県で調整をしながら、市内の用地選定を行っている状況である。

委員) 整備した住宅が、将来的に不良債権となつては意味がない。先を見据えた事業の実施・進捗管理を行う必要がある。行政としてきちんと整理していくべき。中間貯蔵施設の件も目途が立っていないことも踏まえ、双葉郡の方々と協議を行ってほしい。

委員長) 帰還を前提として国は考えていると思う。災害公営住宅もいずれは退去する前提だと思うが、市としての考えは持っていた方がよい。

委員) いわき市の災害公営住宅に入居できるのは、いわき市民だけなのか。また、津波の被災者や自身の被災者だけなのか。

事務局) 基本的にはその通りである。

委員) 災害公営住宅入居者については、将来にわたってのシミュレーションを示してほしいと考えている。事例集のようなものをつくって公開するなどして、市の財産の適正な管理に活かしていったらどうか。

委員) 復興事業計画を審議するのは、この会議だけなのか。

事務局) 市民の方から意見を聞くのは、この会議だけとなっている。しかし、復興事業計画に位置付けられている個別の事業については、事前に地元等との協議を各々実施している。

委員) 復興事業計画のチェック機能はこの会議が担っている。基本的に復興に対する、復興庁・県・市の考え方は違っている。いわき市の災害公営住宅については、住民票がない場合は入居できない。本市以外の住民票を持っている方は、基本的には県の災害公営住宅に入居すると認識している。

推測だが、県の復興住宅で入居者がいなくなれば、市に譲渡されるのではないかと。

事務局) 耐用年数については、集合住宅の鉄筋コンクリートで 70 年、木造の戸建ては 30 年となっている。住民票は入居要件ではなく、罹災証明があればよい。ただし、入居する場合は、住民票をいわき市に移していただくことが条件となる。

委員) 共立病院の早期建設に注力するとあったが、診療科（循環器科や産婦人科が入るのか）の検討を行っているのか。また、共立病院と労災病院のすみわけも検討されているのか。市内では、医師や看護師が慢性的に不足しており、共立に人が流れてしまい、民間病院が圧迫されることを心配している。市全体としての医療をどうするのか検討していくべきではないか。

委員) 待遇の違いなのか、市が民業を圧迫する部分もあるかと思うが、介護人材も不足している状況にあり、人材を集めるのに苦労している。人材不足でショートステイを利用できない方も多くなっている。しかし、これはチャンスでもあるので、民間は頑張つて人を集めるしかない。

委員) いろいろな意見があると思うが、本会議の役割を再度認識いただけてもらった方がよい。

委員) 各委員それぞれさまざまな意見をもっているのです、こうした意見も大事かと思う。

委員長) それぞれの立場で利害関係があるのは理解できる。本日は第1回目の会議なので、各委員の考えを知ってもらう良い機会だと思い発言していただいている。

委員) 前回の総合計画見直し時に、職員数の定員を減らしていくという項目があった。震災後の現状を踏まえ、何をもって「適正」とするのか、見直していく必要がある。何でも減らしていくことが良いわけではなく、逆に不安感を抱いてしまうことも考えられ得るので、状況に応じた対応が必要である。例えば、避難者数の増減によって、市の業務にどの程度影響が出るのかなど、きちんと前提条件を設定して検討を進めていくべきと考える。

委員) 生活、特に下水道で困っていることがまだある。生活者視点を重視し、参加していきたい。

委員) 原発事故の影響によりいわきの環境は破壊された。特に、農林水産業にとって復興が進んでいない。また、周辺の里山も含めた除染が必要と考えている。国、県、市には、農林分野の除染を頑張っていただきたい。

委員) 市のPTA会長としては、復興住宅が地域に急に増えたことで、子どもの対応に日々追われているという状況がある。特に学校給食の問題も抱えている。

委員) 地域の自立を支援するためにも、地域のコミュニティが良好に形成されないといけない。双葉8町村との関係をメインに議論していきたい。

委員) 観光業は大きな課題を持っている。農業と併せて復興しないといけない。

委員) 市内には88,000haの森林がある。原発事故以来、いろいろな不安がある。若い樹木を育てないと、将来的に森林として成り立たない。山間部は都市部と距離があるので、身近に感じてもらえるようにしたい。

委員) 水産業の復興が一番遅れていると感じている。最近、ようやく市場に出せるようになった。今後、小名浜が整備されるようになるのでよろしくお願いしたい。

委員) 学校給食のいわき産米の利用問題はよろしくお願いしたい。

委員) 人口減少問題を優先的に、経済同友会で取り組んでいく予定である。

委員) 福島高専のコミュニケーション学科に在籍している16~22歳の学生で、7・8割は女性である。いわきで就職したい学生は多い。若い世代の意見を発信していきたい。

委員) 赤ちゃんから高齢者まで住みよいまちづくりとはなにかを議論していきたい。

(5) その他

○ 次回の市民会議について

8月上旬ごろ開催する予定。委員長、副委員長と日程調整をしながら、改めてご連絡する。

【署名】 宮本 文雄

両口 美津子